

## 再 評 価 調 書 (案)

I 事業概要						
事業名	都市公園事業					
地区名	西三河都市計画公園 9・6・1号 油ヶ淵水辺公園					
事業箇所	碧南市、安城市					
事業のあらまし	<p>油ヶ淵水辺公園は、愛知県で唯一の天然湖沼であり広々とした水面を持つ「油ヶ淵」の特色を活かした大規模公園（広域公園）である。</p> <p>本公園は「油ヶ淵の自然と歴史 未来へつなぐ水辺風景の創造」をテーマに掲げ、油ヶ淵を含めた周辺地域を以下のコンセプトのもと5エリアに分け、特色ある公園整備を計画している。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aエリア：「矢作川水園」。三河地区の象徴である矢作川を中心とする地域を、流れ、森、広場、水田など郷土性の表現を図る。</li> <li>・ Bエリア：「自然ふれあい生態園」。油ヶ淵の自然環境を再生し、身近な生き物との触れ合いの場の形成を図る。</li> <li>・ Cエリア：周辺の広々とした農地を活かした散策空間や釣りの拠点の場の形成を図る。</li> <li>・ Dエリア：「交流広場」。県民の多様なニーズに対応し、憩いと交流の場の形成を図る。</li> <li>・ Eエリア：「水生花園」。花や植栽により、季節感あふれる風景の創出を図る。</li> </ul> <p>本公園は、平成17年10月に都市計画決定した。この全体計画区域は広大（139.9ha）であり、整備には長期間を要することから、Bエリア「自然ふれあい生態園」とEエリア「水生花園」、これら区域を結び水面や周辺風景を楽しみながら湖岸を一周できる周遊園路の合計 35.5ha（内水面 3.8ha）を早期に供用を目指す「第1期整備区域」として事業を進めるものである。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>◇自然とのふれあいの場、憩いの場及び交流の場の創出</p> <p>◇環境学習拠点の創出</p> <p>◇県民と行政のパートナーシップ活動（県民協働）の場の創出</p>					
計画変更の推移		事前評価時 (H17)	再評価時 (H23)	再々評価時 (H28)	変動要因の分析	
	事業期間	H18～H47	H18～H47	H18～H38	対象を全体計画区域（139.9ha）から、現在整備を進めている第1期整備区域（35.5ha）へ見直したことによる変化	
	事業費（億円）	333.35	333.86	137.00		
	経費内訳	工事費	182.90億円	183.19億円		79.10億円
		用補費	150.45億円	150.67億円		57.90億円
その他		—	—	—		
事業内容	<p>広域公園の整備 A=139.8ha (内水面 63.7ha)</p> <p>【主な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇園路</li> <li>◇橋梁</li> <li>◇駐車場</li> <li>◇水辺の学習館</li> <li>◇トンボ池</li> <li>◇ハス池</li> <li>◇花しょうぶ園</li> <li>◇桃の園</li> <li>◇多目的広場</li> </ul>	<p>広域公園の整備 A=139.9ha (内水面 63.7ha)</p> <p>【主な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇園路</li> <li>◇橋梁</li> <li>◇駐車場</li> <li>◇水辺の学習館</li> <li>◇トンボ池</li> <li>◇ハス池</li> <li>◇花しょうぶ園</li> <li>◇桃の園</li> <li>◇多目的広場</li> </ul>	<p>広域公園の整備 A=35.5ha (内水面 3.8ha)</p> <p>【主な施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇園路</li> <li>◇橋梁</li> <li>◇駐車場</li> <li>◇水辺の学習館</li> <li>◇トンボ池</li> <li>◇ハス池</li> <li>◇花しょうぶ園</li> <li>◇桃の園</li> <li>◇多目的広場</li> </ul>			

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性の変化

【事業採択時の状況】

- ・県営都市公園は 12 箇所あるものの、安城市及び碧南市を含む西三河地域には設置されていない状況であり、地元からは新規整備を望まれていた。
- ・県下唯一の天然湖沼であり、広々とした水面という特色を持つ油ヶ淵周辺を都市公園として整備することにより、「地域の憩いの場」、「自然とのふれあいの場」を創出するとともに、「都市環境の改善」や「都市景観の向上」に資することが求められていた。
- ・油ヶ淵では、関係機関による水質改善対策「清流ルネッサンスⅡ」が進められており、公園整備によって、さらに住民の意識が高まり、地域の取り組みが促進されることが期待されていた。

【再評価時の状況】

- ・油ヶ淵の水質改善が進んでいることや、県民の地球温暖化防止や生物多様性保全に対する意識の高まりから、環境学習の拠点を始めとした公園整備に対する期待が高まっていた。
- ・住民が自発的に公園の管理運営に携わっていく「地域に愛され育まれる公園」を目指し、平成 19 年度から住民参加によるワークショップを 19 回も開催するなど、住民参加による公園づくりに対する期待が高まっていた。
- ・協働活動団体「田んぼビオトープの会」は、平成 21 年度より稲作体験、自然観察会、水質調査の活動を通して「体制づくり」に取り組んでいる。この活動には、一般参加が多数あり、活動協働活動に対する関心や期待が高揚し、活動の場である本公園の早期開園への期待が高まっていた。

【再々評価時の状況】

- ・Bエリア、Eエリアの現地工事が進み、公園の姿が見えてきたことから、本公園の一層の整備促進と早期開園に対する地元市及び住民の要望及び期待が更に高まっている。
- ・油ヶ淵の水質改善の取り組みは続いており、住民の環境保全に対する意識も引き続き高く、環境学習の拠点を始めとした本公園整備に対する期待は引き続き高い。
- ・「油ヶ淵浄化デー」では、周辺 4 市の住民参加による清掃活動を行っており、油ヶ淵の水質改善に対する地域の取り組みが継続されている。
- ・住民参加によるワークショップや協働活動団体の体制づくりへの取り組みが実を結び、平成 28 年度には、「緑のDNAバンクドングリの会」と「田んぼビオトープの会」を本公園で協働活動を行う市民団体として認定した。そこで、活動の場となる本園の早期の開園が強く求められている。

【変動要因の分析】

- ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民意識の高まりとともに油ヶ淵の水質は改善されており、平成 23 年度、清流ルネッサンスⅡの目標値をCOD8mg/l からCOD6mg/l へ改訂した。
- ・平成 26 年度県政世論調査において、質問「現在、関心のある環境問題は」に対し、「地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること」が 67.4%、「自然環境や生物多様性の保全に関すること」が 43.1%となっており、地球温暖化や生物多様性の保全に関心が高いことがうかがえる。
- ・住民参加によるワークショップを平成 19 年度から平成 25 年度の間に 22 回開催し、環境学習や県民協働の拠点となる「水辺の学習館」を始めとした公園施設の計画、設計内容等について意見交換を行った。
- ・平成 27 年度の「油ヶ淵浄化デー」は、碧南市、安城市、西尾市及び高浜市の 4 市にて、油ヶ淵を始めとする周辺河川の清掃活動を行ない、約 4,600 名の参加があった。
- ・「緑のDNAバンクドングリの会」と「田んぼビオトープの会」の協働活動には、平成 27 年度までに延べ約 1,480 名の一般参加があった。

B

- A： 前回評価時に比べ必要性が増大している。
- B： 前回評価時に比べ必要性にほとんど変化がない。
- C： 前回評価時に比べ必要性が著しく低下している。

判定

【理由】

- ・工事進捗に伴い、更なる整備促進と早期開園へ期待が更に高まっている。
- ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民の意識は引き続き高く、環境学習の拠点を始めとした公園整備に対する住民の期待は引き続き高い。

・ワークショップ等が実を結び、2つの協働活動団体を公式団体として認定するなど、開園後の本格的な活動に向け着実に準備が進んでおり、活動の場となる本公園の開園が求められている。

【事業計画及び実績】

		H18	～	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	～	H38
工種 区分	調査・設計	←															→
	用地補償	←															→
	工 事			←													→
事業費 (億円)	計 画	35.50			48.77					34.50				42.49			
	実 績				24.51												

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		参考 (面積ベース 用補進捗率)
	計画 【①】	実績 【②】	達成率 【②÷①】	計画 【③】	進捗率 【②÷③】	
面積(ha)	0.0	0.0	—	35.5	0.0%	—
事業費(億円)	84.27	60.01	71.2%	137.00	43.8%	—
工事費	26.37	21.05	79.8%	79.10	26.6%	—
用補費	57.90	38.96	67.3%	57.90	67.3%	74.2%
その他	—	—	—	—	—	—

※) 用地取得の一部を先行予算で実施しており、面積ベースの用地取得率は74%。

【施工済みの内容】

- Bエリア（自然ふれあい生態園）
  - ・用地12.5haのうち10.4ha買収済み。
  - ・造成工事、園路・広場工事、植栽工事を施工中。
- Eエリア（水生花園）
  - ・用地5.3haのうち2.8ha買収済み。
  - ・ハス池の造成工事、園路・広場工事、植栽工事を施工中。

1) 進捗状況

②事業の進捗状況及び見込み

2) 未着手又は長期化の理由

- ①大規模補償物件の交渉の長期化に伴う用地買収の遅れ
  - ・平成18年度より交渉を重ね、事業に対する了解を得るまでに8年間を要した。現在は、代替地の調整を進めているところであり、契約に至っていない。
- ②用地買収の遅れに伴う工事の遅れ
  - ・用地買収が5年程度遅れ、これに伴い工事が5年程度遅れる。

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

- ・2)①については、当初は事業反対の姿勢であったものの、交渉を継続し、平成26年度には、移転（売却）する了解を得た。平成27年度には、代替地の条件整理を行っており、現在、代替地の候補先の選定と関係者との調整を進めている。平成29年度当初には、代替地の提案および金額の提示を行う予定であり、同年度の契約を目指す。
- ・2)②については、今後概ね5年、用地買収を重点的に進めていく。

【今後の見込み】

- ・大規模補償物件移転を含めた用地買収は、今後概ね5年間で完了する。用地買収後、工事を一層加速し、平成38年度を目標に第1期整備区域全域の整備を完了する。なお、段階的に供用区域を拡大できるよう、工事を進めていく。

判定	B	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長（第1期整備の完了時期を平成33年度から平成38年度へ延長）したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																														
	【理由】	<ul style="list-style-type: none"> <li>用地買収に時間を要しているが、今後概ね5年間での完了を見込んでおり、その後は、工事進捗を一層加速することで、ほぼ計画どおりの完了が見込まれるため。</li> </ul>																																														
③ 事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>競合公園の増加</li> <li>事業期間の短縮</li> <li>社会経済環境の変化（ゾーン内人口の増減、ゾーンの増減等）の反映</li> <li>評価手法（大規模公園費用対効果分析手法マニュアル）の更新</li> </ul> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の費用便益比は9.61（<math>\geq 1.0</math>）であり、事業効果が期待できる。</li> </ul>																																														
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前評価時 (基準年:H18)</th> <th>再評価時 (基準年:H23)</th> <th>再々評価時 (基準年:H28)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">170.5</td> <td style="text-align: right;">205.6</td> <td style="text-align: right;">132.3</td> <td rowspan="3" style="font-size: small;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>事業期間の短縮</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td style="text-align: right;">28.9</td> <td style="text-align: right;">20.9</td> <td style="text-align: right;">12.7</td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td style="text-align: right;">199.4</td> <td style="text-align: right;">226.5</td> <td style="text-align: right;">145.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">効果 (億円)</td> <td>利用便益</td> <td style="text-align: right;">148.2</td> <td style="text-align: right;">977.1</td> <td style="text-align: right;">1,181.0</td> <td rowspan="5" style="font-size: small;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>競合公園の増加</li> <li>事業期間の短縮</li> <li>社会経済環境の変化の反映</li> <li>分析手法(マニュアル)の改訂</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>環境便益</td> <td style="text-align: right;">91.3</td> <td style="text-align: right;">50.3</td> <td style="text-align: right;">96.3</td> </tr> <tr> <td>防災便益</td> <td style="text-align: right;">86.9</td> <td style="text-align: right;">84.4</td> <td style="text-align: right;">116.2</td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td style="text-align: right;">326.4</td> <td style="text-align: right;">1,111.8</td> <td style="text-align: right;">1,393.5</td> </tr> <tr> <td>(参考)年間需要(万人)</td> <td style="text-align: right;">77</td> <td style="text-align: right;">173</td> <td style="text-align: right;">148</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析(B/C)</td> <td style="text-align: right;">1.64</td> <td style="text-align: right;">4.91</td> <td style="text-align: right;">9.61</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「改訂第3版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省都市・地域整備局公園緑地課）H25.10」</li> <li>都市公園事業は、都市環境の改善や防災性の向上を図ると同時に、自然とのふれあいやスポーツ・レクリエーションの場を提供することを目的とした事業であり、直接的に公園を利用することによって生じる価値と、環境機能や防災機能といった間接的に公園を利用することによって生じる価値を便益とし、それに要する費用と比較して求めている。事業採択にあたっては、その値が1以上を要件としている。</li> </ul> <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲を全体計画区域（約139.9ha）から第1期整備区域（約35.5ha）へ変更したため、費用が減少した。</li> <li>評価対象範囲を全体計画区域（約139.9ha）から第1期整備区域（約35.5ha）へ変更したため、事業期間が短縮となり、これに伴い便益が早期に発現され、便益が増加した。</li> <li>誘致圏域人口および世帯数の増加に伴い、便益が増加した。</li> <li>以上より、費用便益比は前回から増加している。</li> </ul>	区分		事前評価時 (基準年:H18)	再評価時 (基準年:H23)	再々評価時 (基準年:H28)	備考	費用 (億円)	事業費	170.5	205.6	132.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>事業期間の短縮</li> </ul>	維持管理費	28.9	20.9	12.7	合計(C)	199.4	226.5	145.0	効果 (億円)	利用便益	148.2	977.1	1,181.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>競合公園の増加</li> <li>事業期間の短縮</li> <li>社会経済環境の変化の反映</li> <li>分析手法(マニュアル)の改訂</li> </ul>	環境便益	91.3	50.3	96.3	防災便益	86.9	84.4	116.2	合計(B)	326.4	1,111.8	1,393.5	(参考)年間需要(万人)	77	173	148	費用対効果分析(B/C)		1.64	4.91
区分		事前評価時 (基準年:H18)	再評価時 (基準年:H23)	再々評価時 (基準年:H28)	備考																																											
費用 (億円)	事業費	170.5	205.6	132.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>事業期間の短縮</li> </ul>																																											
	維持管理費	28.9	20.9	12.7																																												
	合計(C)	199.4	226.5	145.0																																												
効果 (億円)	利用便益	148.2	977.1	1,181.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象範囲の縮小</li> <li>競合公園の増加</li> <li>事業期間の短縮</li> <li>社会経済環境の変化の反映</li> <li>分析手法(マニュアル)の改訂</li> </ul>																																											
	環境便益	91.3	50.3	96.3																																												
	防災便益	86.9	84.4	116.2																																												
	合計(B)	326.4	1,111.8	1,393.5																																												
	(参考)年間需要(万人)	77	173	148																																												
費用対効果分析(B/C)		1.64	4.91	9.61																																												

2) 貨幣 価値化 困難な 効果の 変化	<b>【前回評価時の状況】</b> ・油ヶ淵の水環境保全に対する住民の意識を高める効果が期待できる。 <b>【再々評価時の状況】</b> ・大きな変化はなし。	
	判定	<b>A</b> A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。 <b>【理由】</b> ・費用対効果分析結果は1を上回っていると同時に、前回評価時と同様の事業効果が発現される見通しがあるため。
<b>III 対応方針（案）</b>		
<b>継続</b>	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。	
<b>IV 事後評価実施の有無と主な評価内容</b>		
■対象（事業完了後5年目） □対象外 <b>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</b>  <b>【主な評価内容】</b> ◇年間公園利用者数 ◇公園利用満足度（アンケート調査） ◇環境学習の実施状況 ◇県民協働のイベントやプログラム等の件数		
<b>V 事業評価監視委員会の意見</b>		
<b>VI 対応方針</b>		